幼兒教育

第十九卷　第四號
大正八年四月一日發行

目次

新入園兒の家庭の方々へ……倉橋惣三
春の自然
一、春の景色……堀七藏
二、引き潮の跡……平島權藏
三、春の雜草……竹島茂郎
神戸幼稚園の新しき試みの一端(二)……志賀末
表情遊戲……土川五郎
四月の園藝……有川ひさ江
雜錄
幼稚園と兒童保護……谷本富

日本幼稚園協會

會告

○會費御拂ひ込みの節は御名前は初め御入會の時の御名前と御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後、個人の御名前にて會費御拂込み等のことなき樣必ず願上候整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左樣御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一冊　郵稅共金拾六錢　六冊前金郵稅共九拾錢
拾二冊同金壹圓八拾錢　郵券代用一割增

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込みください。直に送本致します。（振替口座東京一七二六六番）

大正八年三月廿八日印刷納本
大正八年四月一日發行

編輯兼發行者　東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四　倉橋惣三

印刷者　東京市本所區番場町四番地　守岡功

印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社本所分工場

發行所　東京女子高等師範學校附屬幼稚園內　日本幼稚園協會

幼兒教育　第十九卷第四號　大正八年四月一日發行

新入園兒の家庭の方々へ

＝三月十五日に開かれし新入園兒の母の會の席上に於ける講話の一節＝

東京女子高師附屬幼稚園主事　倉橋惣三

○幼稚園は家庭の離坐敷

幼稚園と申しますと何か特別な所の樣に考へておられる方があるかもしれませんが、私共の立場から申しますれば幼稚園とは皆樣の御家庭がこゝ迄のびて來たもので、家庭の離座敷とも、庭つゞきの家とも考へられるので、決して家庭をはなれて特別に幼稚園と云ふ教育機關があるのではありません。私共の一番氣をつけねばならない事は幼稚園に出すと云ふ事のために子供に特別更たまつた氣持を與へない樣にと云ふ事であります。朝、子供を幼稚園に送り出す時に、母親が子供に「太郎さん、あなたは今迄自宅に居た時には女中や書生と遊んで居たからよいが、今日から、幼稚園に行くのです、幼稚園の生徒になつたのですから、すべからく、善い事をしなければならない。充分決心覺悟をして行かねばならない」と云ひ聞かせる樣なことがもしあるとすれば――そう云ふ方は恐らくありますまいが――それは實に幼稚園を何か特別な所、他所行きの場所と取扱ふものであります。

とかく今の子供は神經質で困ります。私共の希望する子供は、「こゝはお座敷」「こゝは自宅」「こゝは庭」と、はつきり區別をつけて一々行儀作法に氣をつけたり、或は「今はお友達と一所であるから」とか「先生のまへである」とか云つて一々之を意識して態度をあらためる樣なものではありません。實に子供は其の居る場所などには無頓着で、天上天下これ我が住む所として到る所に自己を充分發揮するものでありたい。人間が子供の時代を永くもつて居る所以は、實に此處にあるので、この時期を最もよく用ふる事、卽ち最も有りの儘に生活する樣に仕向ける事が、我々幼兒期をあづかるものゝ大なる責任と思ひます。この、子供があまり場所をわきまへすぎて、神經質であると云ふ事は敎育について考へのある謂ゆる智識階級の家庭に育つた子供が、とかく陷りやすい點で、私はこの小さく出來上つた大人の樣な子供を見る度に、こんな幼時からこの樣では此の子の將來は實に心細いとまで思ふのであります。しかしこの點に於ては家庭よりも幼稚園の方にも余程責任があります。「家庭では鼻をたらしてゐるが幼稚園に來たらそれではいけない」とか「家庭では甘つたれてゐてもよいが幼稚園へ來たらチャンとしなければいけない」とか、つひ云ひたくなる。さもなくてさへ建物から云つても生活狀態から云つても、とかく學校氣分を與へやすい幼稚園が、環境に對して子供を無頓着である樣にとねがふのは、餘程むづかしい事でありませう。しかし子供に不似合な心配をさせ、苦勞性にすると云ふ事は、實に遺憾な殘念な事で、何處までもこの點はお互に協力して氣をつけたいと思ひます。英語で「お氣樂に」と云ふ場合に「お宅にいらつしやる通りに」と云ふ言語を用ふるそうですが、實に幼稚園は「お宅にいらつしやるそのまゝ」でありたいのです。

○敎育の出發點は眞實から

子供が他所行きの氣分になつてゐては、とても本當の教育は出來ません。我々は微力なものですから一生懸命力のかぎりにしても大した事は出來ませんのに、もし相手が有りのまゝを出し、また我々の云ふ事を有りの儘に受取つてくれる事がなければどうする事も出來ますまい。厭な事は厭、好きな事は好き、これはしたい、これはやめたいと思ひのまゝに子供がふるまつてこそ幼稚園の教育は始められるのです。鎧甲で身をかためて「さあ私の肌に觸つてくれ」と云つても仕方のない樣に子供がその心を閉ぢて少しもありのまゝを出さなければ微力な我々はとても心の底まで透徹した教育をする事は出來ません。小學校又は以上の學校の年齡になれば兎も角、少くとも幼稚園では實に家庭の通りに振舞ふ樣にしたい、實に時と所を超越してくらす幼兒期に於て學校と家庭とを區別して生活するのは之れこそ虛僞の生活である。虛僞の上には何物を築く事――初める事――は出來ません、私共何も出來ずともせめて眞實から出發して教育したいと希望致します。

○家庭に在る母も心は幼稚園に

扨、幼稚園はどんな事をする所か、これを充分御承知を願ひたい。と申しますのはこゝに二つの理由があります。第一は子供を幼稚園に送り出した後も母親は最愛の自分の子は今頃どんな事をしてゐるだろうかとたえず考へてゐて頂きたいのであります。これが幼稚園の先生にとつても、ごく大切な事でどれ位これが私共を眞劍にし働甲斐ある樣にさせるかわかりません。もとより幼稚園によつては救濟の意味で母親の勞働の足手まとひになるから之をあづかると云ふ性質のものもありますが、皆樣の樣な御家庭の場合はそれとは全然違ひます。玩具にしても世話する人にしても幼稚園にあるよりは寧ろ充分ある事と信じます。こゝから

出發いたしますからこの幼稚園は家庭の代用をして居るとは思ひません。預けてしまつたからもうこれでよいとは吳々もお思ひにならぬ樣に願ひたい。一體子供の敎育と云ふ事はたゞ其子が眼の前に來た時に斯う云つてきかせたから、斯う取扱つたからそれで敎育が出來たと云ふ樣なものではありません。敎育は如何に始終其子の事を考へて居るか否かに歸着するのであります。卽ち家庭の人——母親——は身ははなれてゐても心に於ては幼稚園にある其子と一緒に生活してゐて頂きたい。「いつの間にか突然歸つて來た」「おやヒョッコリ歸つて來た」と云ふのでなく「もう歸る時分」と待ち受ける。卽ち朝別れて午後歸る、その間が同じ續いた一日でありたい。「何時から何時までは幼稚園」「何時と何時とは家庭」と一日を二回に使ひわけて區別する事は實に恐ろしき事、有害な事であります。それから、今一つの理由は子供が幼稚園で何んな生活をして居るかをよく知つて居て頂いて、それをお子さんにお聞き下さらない樣にしたいのです。幼稚園でする事を知つて頂きたいと云へば或はかう考へる方があるかもしれません、卽ち子供が幼稚園から歸ると「幼稚園で今日は何をしましたか。これからお淺ひをして御覽なさい」と云つて幼稚園の報告、復習をさせれば、よくわかるではないかと。しかしこれは大々禁物です。子供が幼稚園にある間母親はたえず園の事を考へてゐて頂きたいと申しましたが、子供が歸つたらパッタリ忘れて頂きたいのです。歸るとすぐ「今日は坊やは何をしました。」「叱られはしなかつたか」「喧嘩をしなかつたか」などきくと其度に子供は幼稚園と云ふものをはつきり心に浮べて考へる。幼稚園といふものが子供の心に意識的になる事は前から申します樣に實に望ましくない事であります。何だか知らないが面白い所へブラリと行つてたゞ面白く遊んだ。其の中にまた外の樂しい所へブラリと歸つて來た。愉快から愉快にう

つつて行くと云ふ樣でありたいのです。幼稚園に來て居ながらそれを意識にのぼらせないでたゞ樂しく遊ぶと云ふ樣でありたいのです。それには大體幼稚園はどんな事をする所かと見當をつけて、一々子に聞かずともよく分つて居るに樣して頂きたいのです。

○我が幼稚園の一日

先づ朝子供が幼稚園に來る。その時刻は季節によつて違ひますが四月からは九時始りとなつて居ります。けれども其時間から例へば五分おくれたと云つて昔の話にある樣に、線香と茶碗を持つて立たされると云ふ程嚴密に考へては居りません。理想としては幼稚園は時計さへもない國でありたいので、九時ときめてもそれが大體の標準になつてゐるに過ぎません。即ち幼稚園が初まると云ふのは朝子供が受持の先生に個人的に出會つて「お早うございます」と云つたその時から初まるので八時五十五分に來た子は其時、九時五分に來た子は其時が始まる時間です。小學校ならば九時始業と云へばその時に鐘が鳴つて一齊に室に入ると云ふ事になりますが、こゝの幼稚園では別に鐘をならしません。九時始りと云つて九時に何か仕事が始まるのでなく、其頃に先生が子供を受取る即ち引受（レセプション）の時を指すのであります。扨子供を受取つてからの一日はどうかと云へば、此處では時間割は毎日各々の先生がそれ〴〵につくります。決してある規則にあてはめてその型にはめて行きません。其處でたゞ外部からこれを見ると、一向何だかきまりのない樣ですが、各々の先生は實に深く考へて其一日〳〵を最も面白く子供を生活させるために苦心するのです。それ故皆樣―（家庭の人）―がたとひ子供さんにお聞きになつても、「何だかした、しかし要するに面白かつた」としか答へられますまい。子供を知的にどれだけ悧巧にしやうかと云ふ事よりも、如何にすれば子供一人一人

が充分にその個人性を發揮して眞に一日を本眞劍に生活し得らるゝかと云ふ事に我々は骨折るのです。繪をかくにしても、歌を歌ふにしてもお話をするにしても之を教授するのではありません。繪により歌により話によつて其の時、その時を子供と〻もに生活するのです。山のまわりを馳けてゐる子でも砂場で遊んでゐる子でも、皆之によつて教育はして居ります。どうか幼稚園は知識を授ける所とはお考へ下さらぬ樣に願ます。

○幼稚園は撰ばれたる友達の社會

元來、幼稚園は子供同志がお互に教育する場所で先生はたゞ此子供の群を世話する役目です。一番よい幼稚園と云ふのは大人が手出しする事の一番少ない幼稚園です。入園の當時こそ必要に應じて先生は子供を背負ふ事も抱く事もありませう。しかしこれは本意ではなくて、子供が幼稚園の生活に馴れて來れば、大人は思ひ切つて手放したいので、何處迄も子供同士の間を尊重したいのです。もし之を極端に定義すれば「幼稚園とは撰ばれたる友達の社會なり」と云へませう。そこで一方に出來るだけ大人が細かく世話をやかない樣に、所謂無駄親切をせぬ樣に努めると云ふ事とともに、また子供同士が幼稚園に於てお互に充分の影響をしあふ樣にするのです。

自分本位で自分の子供を悧巧にしたいばかりにもし幼稚園に子供をよこすとすれば、それは實に間違ひです。お互は選ばれたる子供の社會の一人で、重大關係を他の子供さん等に及ぼして居るものであります。そこをよくお考へ下さつて、御自分のお子さんの爲に、又他のお子さんの爲にと、充分細い御注意が願ひ度いのであります。

扨て斯ういふ譯ですから、幼稚園の効果を充分におさめるか否かはこれは子供を幼稚園に送る其家庭の人の熱心と否とに一番關係があると思ひま

す。我々微力なものは何も差上げ得ないのですが皆樣の熱心によりこの微力なものの中からでも充分お取りになるものがあろうとは思ひます。熱心と云つてたゞ理論上でなく、具體的に云へば子供を幼稚園によこす時に母親が如何なる用意をもつてよこすか。例へば此處に運動のよく出來る樣に袖もみぢかい、靴もかるい甲斐〳〵しい裝ひで來る花子さんと、ゾロ〳〵引き摺る樣な袖の着物で重い草履をはいて來る春子さんとあれば、前者は明らかにあの幼稚園の廣い庭を思ふまゝ馳けまはる樣に、大勢の友達を相手に思ふ存分遊ぶ樣にと親が心がけて居られるので、卽ち出來るだけ幼稚園生活の効果をおさめたいと云ふ熱心が實現されて居る譯です。後者は之をして極端に評すれば「何、自宅の子はたゞ幼稚園のあの庭の隅の柱にボンヤリ立つてゐればよい。馳れと云はれたら、こんな草履ですものと云ひ、友達にさそはれてもこの長い袖を引きずるからとことはればよい」と親が思つて居られる。卽ち幼稚園から何の効果も得たくないのだと云ふ樣にしか思はれますまい。例へば手拭、辨當などに必ずお名前をつけて下さいと幼稚園の方からお願ひするとしますと、これは小さな事ではあるけれども、もし幼稚園生活を眞に理解した家庭ならば、かゝる點まで充分氣をつけて下さるでせう、幼稚園が一つの撰ばれたる友達の社會である以上、その効果を充分ならしむるためには各兒の家庭がその子の幼兒期生活を最ものび〳〵と送らせるために熱心にたえず考へられる事が大切であります。其熱心に我々微力なるものも勵まされて最善を盡くすに至る樣、卽ち家庭の方から始終働きかけて來らるゝ事を希望する次第であります。（文責記者）

春の自然

春新たなり

春が來た。春立ちかへると昔の歌人はいつたが、私はそう思はない。春は新らしく始めて私の前に來るのである。年々歳々人同じからず。年々歳々花は同じと唐人は言つたが、私はそう思はない。人こそ何時も同じ處に舊り易いが、花は、春は、年々歳々絶えず新らしい。

新らしければこそ心躍る。我は日々に新らしく生れ、心は日々に新らしく躍る。春風何ぞ爽かに。春空何ぞ明かなる。草の葉と梢の花は、新らしき朝の露に潤ひ、新らしき朝の日光に瞬く。小鳥はその新らしき嘴に新らしき歌を唱ひ、小馬はその新らしき啼に新らしき土を蹈む。人間いかで獨り舊りん。今朝新らしき呼吸香ばしく、新らしき血胸に溫かなり。新らしく見、新らしく聞き、新らしく觸れ、新らしき旋律に漂ふて野に擴がり丘をめぐる。あゝ春新たに人も亦新たなる日よ。(倉橋生)

一、春の景色

東京女子高等師範學校訓導兼教諭　堀　七　藏

○春の空模様

「春秋」に春喜氣也故生、秋怒氣也故殺、夏樂氣也故養、冬哀氣也故藏とある。實に春は萬物發るを以

て其名あるといふ位氣候溫暖にて草木は伸長し百花爛熳禽獸悉く冬眠よりさめて喜戯するといふ誠に愉快なる季節である。この春の天地、この春の自然、之を彩るものは春雨、春霞、花曇である。是等が春の舞臺を形成する要素ではあるまいか。

○彼岸の中日

生死を此岸とし涅槃を彼岸とするは佛經の語、春分秋分の日を彼岸の中日と稱し諸佛に詣で亡靈に供養するも佛家の習俗であるが、そは兎に角として春分は晝夜平分にして冬至から次第に赤道に近きつゝあつた太陽は更に益々北に來るので氣溫は漸次に昇る。從つて地上深く積れる氷雪はこの陽氣によりて融け之が水蒸氣となりて盛に上昇する。この上昇せる水蒸氣が春雨となり春霞となり花曇を現出するのである。

○春霞

地上より蒸發する水蒸氣は空氣と共に上昇する。換言すれば水蒸氣を多く含める空氣は地面より上昇する。所が春はまだ上層の氣溫低きがため下方より上昇し來れる空氣がこの溫度低き氣層に達する。其含める水蒸氣は茲にて冷却し微細なる水滴となり之が霞で、春は、屢々、朝夕この霞の棚引を見るのである。元來霞といふも霧といふも共に地面近くの空氣中にある水蒸氣が凝結して空中に浮遊してゐるものを稱する。故に霧と霞とは劃然たる區別がない。世俗には春霞と稱し春霧とはいはず秋霧と稱して秋霞とはいはぬ。大體に於て春より夏にかけては霞と稱し秋より冬にかけては霧といふ。更に强ひて霞と

霧とを區別すれば霧の薄いのが霞で、霧の水粒は肉眼でも注意すると分るが、霞の水粒は一層微細にして分らぬ點にある。しかし學術上は霧と霞とを同一のものとなし、凡て霧として取扱つてゐる。尤も文學上では霞の衣とか霞立つや野邊へ景色面白しとかまた雲霞など霧と區別すること屢々である。

○花　曇

櫻花爛熳たる陽春四月は實に花曇りである。昨日も今日も、今日も明日も降るでもなく照るでもなく只どんよりと曇つてゐるといふのが所謂花曇り、花咲く春の特徴である。これ地面に近き氣溫は著しく高くなり水蒸氣の蒸發することが多いが上層の氣溫が低いためと殊に季節風の交替する時期で定風がなく地方的の小低氣壓が頻繁に起るために曇天の續くのであるといふ。

○曇　と　晴

普通の人は日記をつける時、晴雨の記入に一定の標準がない。どこまでが晴で、どこまでを曇となすか、甚だ不明である。しかし氣象學上でいふ晴と曇、天氣豫報に用ひる晴と曇には一定の區別がある。降水の有無にかゝはらず雲量の多少によつて晴曇を定める。卽ち雲量二以下を快晴、三から七迄を晴、八以上を曇とする。換言すれば全日の平均雲量二未滿なる時は其日を快晴、八以上なる時は曇天とし、其他を晴となす。而して平均雲量とは雲に被はれた空の分量である、天空拭ふが如く全く雲のない時は雲量〇で、滿天雲に被はれてゐる時は一〇で、雲に被はれた空の部分が天空の半に達すれば雲量五であるとなし、雲量を十級に分つのである。また雨天は〇・一粍以上の雨量のあつた日で、一寸雨がばら〳〵と

降つたときには雨天とはいはないのである。

○春　雨

花曇りの時節には雨の降ることも多い。これは地方的の小低氣壓が頻繁に起るためで、恰も梅雨期の降雨が支那揚子江沿岸地方に發生せる低氣壓の續出して本邦を襲來するに起因すると同樣であるらしい。

兎に角春雨が土地を濕し太陽は地上を照すので地上の草木は新芽を伸し種子は盛に發芽する。春秋の所謂春喜氣也故生の好季節である。

○陽　炎

春の長閑なる日にチラ〳〵と空中に立上りて見ゆる氣で亦春の一特色をなす。熱せられて立上る空氣に光線が反射し、吾人の目に入るから起る現象である。冬の日、熱せるストーブの上方を見るとチラ〳〵立上る陽炎かあり。夏の日燒けたる屋根瓦の上を見ると亦この陽炎が立上る。しかし春の陽炎は春の陽氣と共に人心を長閑に靜穩になすもので何ともいへぬ風情のあること勿論である。

二、引き潮の跡

東京女子高等師範學校助教授　平島權藏

四月は一年の中で最もよく潮の干る時で在り、また干て居る時間も長いので在ります。殊に本年の四

月五月は共に丁度一日が朔日潮で十五日が望ノ月の潮に當り此兩日は大凡午前十一時頃が干底になります。其から後は一日毎に五十分間程づゝ後れ又是より前は毎一日に約五十分間位づゝ早い割になります。で四月三日の神武天皇祭などは申分のない潮干狩の日で在ります。此の日は場所にも依りますが外海では大抵午後一時頃が干底で常には干潮でも水中に隱れて見られない岩や海底までが現はれて來ます。斯うした引き潮の跡を見ますと砂上にはヒトデやウニなどの殼も轉がつて居りますがカニのいろいろイソギンチャクなどは何所の海岸でも必ず見られます。砂の上に手を一ぱいに擴げて居るイソギンチャクを指でつゝきますと水を薄の穗の樣に吹き上げて美しい噴水が出來る。と同時にぎら〳〵と指先きに感じます。是は其觸手に在る刺胞といふもので刺すので小さな動物は是に刺されると死んで仕舞ます。が我々の指は皮が厚いので唯ざら〳〵と感ずる位の事です。又水が薄の樣に出るのは眞中の口各觸手の先きに在る孔から體腔中の水を吹き出すからです。

イソギンチャクを少し大きな金魚鉢か水槽に海水で飼つて置くと隨分長く生きて居ます。現に私の所には四五年も飼つて在るのが居ます。是には岩に着いて居る眞赤な**ウメボシ**といふ種類か又は美しい綠の斑點の在る種類が飼ひ易くて宜しい。岩から離す時には十分に注意して體の何所にも少しの傷を負はさぬ樣に。其れには岩に附着し居る工合で取り離し易いか否かを注意して、先づ第一に取離すのに都合のよいのを見出すのが肝要であります。其を一つか二つ（餘り慾張つて澤山に一つ器に入れると死んで仕舞ます）水の四五合も入る器に入れて持歸る。此時は密封しても一日や二日は大丈夫差支在ません。食物は一ヶ月か二ヶ月目に一度位アサリかハマグリの肉を小さく切つて口に入れてやると宜しい。然し食物を與へるときつと翌日は水が濁る、其所で三日目位に水を取り換へます。水は海水でなければなら

いので海に遠い所では少し厄介です。しかし貳ヶ月に一度位取換へれば濟むので一斗も取つて來て置けば一年位は辨じませう。外海の清み切つた水なれば永く置ても濁る樣の事はありません。

海水を濾さなければ微生物の腐敗の爲めに濁るといひますが、外海で岸から少し離れた塵埃の無い所を汲み取つて置くと決して濾したりなぞする必要はない樣です。水を取換ふる時イソギンチャクが鉢に附着して居るのを剝がさぬ樣にせねば弱ります。

イソギンチャクとヤドカリの共棲の御話は隨分小供の喜ぶもので自然界の現象の中では面白いもの丶一つです。然し是の大きいのは深い海で無いと居りませず飼つて置くにも大きな場所が必要ですが、豆粒の樣な小さなイソギンチャタと小さな貝殼を背負ふたヤドカリとの共棲して居るのは東京灣にも澤山居ります。特に稻毛の海岸で無數に居るのを見ました。是などは體が小さいので水の一二合も容る丶壜の中ならば長く飼つて置けます。

序に申ますが飼養の容器は其動物の大小と活動の如何によつて違ひます。卽ち大きな動物は大きな器に小さなのは小さので宜しい。然し同大さのものでも其運動の活潑なものは割合に大きい器の必要があります。のみならず非常に活動の烈しいものでは斷へず水の轉換又は空氣を送り込む必要が起ります。空氣を送り込むのは大仕掛の時は空氣をタンクに溜て置て細い管で送るので在りますが金魚鉢位の大きさの場合にはスポイドかスプレーの樣なもので送り込めば澤山です。管は成る可く水の底近く挿入し其先に海綿又は孔の多い木炭を挾んで置く。すると空氣は非常に細かい泡と成つて吹き出されよく水に混じます。是は水族館などでよく御覽になりませう。

此共棲のイソギンチャクが觸手を擴げたものは實に美事で體に綠や赤の縞が在ります。

江の島の岩屋道の下の廣い岩の周圍が大潮には一間の餘も水面に顯はれる。其引き潮の跡には海藻やら種々の動物やらで二時間や三時間の潮干の間には迚も見盡されぬ程の種類が在ります。其中にヤギと

いふ珊瑚の一種で眞紅のや橙黃の美しい色をしたものが在ります。若し見えなければ潛りに少しの金をやると幾何でも取つて來ます。漁師仲間では是を龍宮の松といひます。岩上の溜り水の中に入れて置くと無數の黃色のポリプが開いて丸で美しい花の咲いた樣です。其花瓣に似た八本の觸手を蟲眼鏡で見ると鳥の羽の樣に左右に枝が出て一層美しく見られます。動物學の進步しない時代には是を植物だと思ふて居たのも無理では在りません。裝飾品として珍重する**モモイロサンゴ**、**アカサンゴ**などの珊瑚蟲卽ち**ポリプ**の觸手も此通りです。是も小さな壜に入れて持歸ると一日や二日は活きて居ます。初の內は觸ると觸手を引込ませますが後には如何に强く觸つても平氣で居る樣になります。此時にアルコールに漬けると觸手が開いた儘に固まつて美しい標本が出來ます。

其外、岩の表面を注視すると初めの程は唯の岩とばかり思ふたものが、なか〳〵どうして實に思ひかけぬ所に種々の生物を見出さるゝものであります。季節が違ひますが秋の山を歌つた、かの

心止めて見ればこそあれ秋の山
すゝきにまじる花のいろ〳〵

といふのと同じ心でせう。岩の割れ目の所に集つて居る**カメノテ**といふのは、爪の集つた樣な殼で體を圍み短い肉質の柄の表面は丁度龜の手の樣に小さな鱗片を持つて居ります。又同じ樣なので殼が薄く柄は鱗片の無い柔かな肉質のもので**エボシガヒ**といふのが在ります。然し是は岩には附着せず浮き木の下面などに着して流れて居るもので波の爲めに岸に打上げられて居るのを拾ひとる事があります。同じ類で岩の表面に壺を伏せた樣な**フヂツボ**といふのがあります。以上の三種は共に水の中では長い蔓の樣な脚を澤山に出して食物となる動物を押へて口に運ぶのが見られます。卷貝の類も澤山岩について居りま

す。白に青黒の斑の在る**アマオブネ**、是は貝殻の内側に三分の一ほど小舟の舳にある板棚の様なのがあります。其からサザエの様で極めて小さな**タマキビ**、是は掃き集める程に澤山でそして一つ所に集つて居ります其集つた所を見れば此動物と光線との關係は自から解釋が出來ます。**ヨメガサラ**と云ふのがあります、どうしてこんな名前をつけたか兎に角、皿としては使へませぬ、皿の底が尖がつて据りが惡いこのヨメガサラの中にもまたいろ〳〵の種類が含まれて居ます。殻が薄くて細かい斑のあるのがヨメガカサ。貝の表面に鵜の脚の趾の様に見へる筋が高く出て居るのがウノアシ、又同じ筋が澤山にあるキクノハナガヒ、是に能く似て少しく大きく貝の縁に出入のあるツタノハなどいふのは多く其形から名づたけもので、何れもヨメガサラといはれて居る。また私は嘗て江の島の岩屋の入口の近くで**イトカケガヒ**といふ、眞白の小さな長い卷貝に縦に絲をかけた様になつたものを生きたまゝ捕つた事もあります。生きたと申せば**寶貝**の類は皆磨いた様に美しい光澤が在ります。是は決して磨いたのではなく活きて居るものが皆あの通りの光澤を持つて居ます。なぜ此貝はアハビやサヾエの様に殻の外が汚くならないのかといふ事を實際に知るのは、寶貝の活きたのを探し捕つて小さな壜に入れて持ち歸り飼つて置くと貝が其譯を敎へてくれます。其は卷貝の類ですからマヒ〳〵の様に足を長く出して爬ふと同時に、此類では美しい外套膜を出して殻の外側を全部包み、又或時は是を縮めて殻中に引き込ませます。此様にする度に柔かな肉で靜かに貝殻の表面を拭ふのであの様に美しい艶が保たれるのであります。江の島邊で見つけるのは何時も**メタカラガヒ**といふて、鼠色地に黒鳶色の飛絲の様な模様の在る寶貝としては割合に美しくない小さなものであります。此目立たないといふ事が毎日〳〵澤山に集る遊覽客の目から逸せられて生存を續け得らるゝ次第です。此れはまた以上述べた貝類には共通の事で岩に附着した時は餘程注意せぬ

と見つかりませぬ。序に見つかり悪いものを今二三種あげて見ますと、岩と同じ色で楕圓形をした**ヒザラガヒ**といふのがあります。是を岩から引きはがすと直ぐ老爺の背の樣に曲ります其れでヂイガセとも申します。其背の方には八枚の骨板が縱に幷んで其周圍には肉質の樣な突起が澤山にあります。此類で**ケハダヒザラガヒ**といふのは八枚の骨板の左右に石灰質から出來た毛の塊りが辨慶の旅の衣の珠數懸の紐の樣になつてゐます。又此樣な毛も肉質の突起もなく、八個の骨板が肉に埋まつて僅かに其先の方だけが外から見ゆる樣になつたものは**ケナシヒザラガヒ**であります。

こんなものゝ名稱を一々知るといふ事は困難の樣でまた必要もないと思はれぬでもありませんが、名を聞いてまた見直すや草の花

で名も知れぬ花よりは知つた花の方が興味を感じ又折角名を知つて居ても實物と出合はなければ面白味は少ないものです。其れ故に名前を知るも宜しいが實物に接するが猶更必要な事でせう。然し此事は餘り大袈裟に考へると手がつきませぬから、時に臨み折に觸れて一つでも二つでも理解して母親なり先生なりが先づ自ら段々と自然界に近づきになり、子供達もしらず〳〵興味をおこす樣になれば結構でせう。

三、春の雜草

東京女子高等師範學校教諭　竹島茂郎

「いそがしや菫を摘めばつく〳〵し」と千代女が咏んだ樣に、春の野邊は誠に感興の深いものであります。彼の山邊赤人の「春の野の菫つみにと來しわれぞ野をなつかしみ一夜寢にける」と云ふ歌心は、此

の菫の喚び起す強き感興と、此の感興から湧き出す春ののどかな心持とを、極度まで云ひ現はして居ます。私は之から春の野にある雑草の中で、此の評判物のすみれとつくしと、其のつくしの親のすぎなとすみれの乳姉妹(チキヤウダイ)と呼ばるゝたんぽゝ、れんげさうのことを簡單に述べませう。

一、すみれ(菫)

一口にすみれと申しましても、其の中に色々の種類があります。皆さんは其の中三色すみれとにほいすみれとは御承知でありませう。さて三色すみれの樣に地上莖のある種類で、野邊の雜草中に混(マヂ)つて居るものにたちつぼすみれとつぼすみれと呼ばるゝ種類がありますたちつぼすみれと申しますのは、葉は少し幅廣(ハヾヒロ)い心臟形(シンザウガタ)で、葉柄のもとにある一對の托葉(タクエフ)は櫛形(クシガタ)に分裂して居て、花は帶紫色でありますし、つぼすみれと申します方は、葉は腎臟形(ヂンザウガタ)で花は白色又は白紫色であります。

又にほひすみれの樣に地上莖のない種類で、葉は長楕圓狀卵形(チヤウダエンジヤウランケイ)で、葉柄に翼(ヨク)をもつて居まして、帶紫色の花の咲く種類は普通のすみれで、葉の形は普通のすみれと同樣で、白い花の咲くのをしろばなすみれと申します。又葉は長い心臟狀卵形で、葉柄に翼をもつて居ない種類は之をこすみれと申します。

今おなぐさみに、右の外のすみれの種類をあげますとざつと次の十六種あります。卽ち「きすみれ」(一名きばなのごまのつめ)●(おほみやますみれ」●「すみれさいしん」●「ながばのすみれさいしん」●「えぞすみれ」●「えぞたちつぼすみれ」●「おほばたちつぼすみれ」●「はいつぼすみれ」●「みやますみれ」●「ひめみやますみれ」●「ふもとすみれ」●「たちすみれ」●「いちげすみれ」●「いぶきすみれ」●「あふひすみれ」●「しはいすみれ」の類であります。

二、つくし(土筆)…すぎな(問荊)

「さほ姫の筆かとぞ見る土筆雪かきわくる春のけしきは」(藤原爲家)と歌にもある樣に、つくしは雪の中に春のおとづれをなすものであるが、之はすぎなの地下莖から實(胞子)を結ばんが爲に特別に出るもので、つくしの枯れたあとから益々すぎなの芽が出るのであります。子規の發句に「すきな多き土手に出でたり土筆狩」とありますが、併しすぎなとつくしとは一緒には出ません。土筆の成長は誠に早いもので、雨の一日をおいて行つて見ると、昨日の雨が皆土筆になつたかと思はれる位に、野原一面に生ひ出て居ることもありますので「雨は皆つくしになりぬ山畑」(月芳)など云ふ發句もあります。

つくしの袴と云ふのは葉であります。葉は凡て莖の節の所に着くものでありますが、澤山輪生して居る所から互に緣の所が癒着して鞘形をして居るのであります。すぎなの節がよくぬけまして、其の節にある鞘の所へぬけた莖をさし込んで、どこを接いだかあてつこをすることがあります。すぎなの莖は綠色をして居て葉の代りを致します。

つくしの穗から飛び立つ煙の樣なものは實(胞子)であります。この實は八十倍位の顯微鏡か又は少し上等の蟲眼鏡で見ますと、小さや粒で四本の紐をつけて居まして、其の紐が少し息をかけますと忽ち卷き縮まつて粒をつゝみ、息をかけることをやめますと次第〳〵に跳ね反つて伸びあがります、その有樣は誠に輕快微妙なものであります、一つ實驗して御覽なさい。

三、たんぽゝ(蒲公英)

たんぽゝは地下に養分を含んだ太い根があつて、其の上端に極短い莖がついて居て、此の莖から葉を

地上にのべて、花莖もまた之から出ます。たんぽゝの花は晝夜により、又晴雨によつて開閉します、併し其の花瓣と見ゆるものは實は一つの花でありまして、其のもとの所に毛狀の蕚と後に實になるべき小さな子房とがあります。

花が過ぎたあとが暫くつぼまつて居ますと、今度はよい天氣に白い毛の樣なボヤ〳〵した花の樣なものが開きますが、之は既に實が出來て、各の實の先に之を飛ばさん爲の毛が着いて居るのでありまして此の毛は卽ちさきの毛狀の蕚の變つたものであります、之を冠毛と呼びます、さはれ形まで全く一つの花形に作られて、兄弟姉妹の樣に一つ花托に成熟した數多くの實は、今や春風に乘つて四方に飛び散らんと冠毛をひろげてまちかまへて居る有樣を見ますと何とも云はれぬ心地が致します。

人は此の冠毛によつて飛んで居るたんぽゝの實を種子と呼んで居ますが、之は丁度飛行機が飛んで居るのを人が飛んで居ると云ふのと同し程度の大きい誤りであります。

四、れんげそう（紫雲英）

れんげさうは一名えぐと呼びます、「小山田のえぐのわかなを打かへし苗代水を引きかくるかな」と堀河院の咏まれましたのは、田にれんげさうを植ゑて之を打ちかへして肥料にする所を咏まれたものでありまして、今日とても田舍に行きますと、此の爲に田に一面にえぐを作つてあるのを見かけるでありませう。

學校の遠足で郊外に出た時に、斯樣な田を見付けますと、子供は我先にと驅けつけて其の花を摘んで幾つかの花束をこしらへ、之は母上に之は姉上に又妹にと色々心あてして居るのを見る度に「君がため

をの丶あれたをふみわけてえぐつむ袖やかつとほりけん」と後鳥羽院の咏まれましたことどもを思ひうかべ丶貴きも賤しきも今も古きも變らぬは人の心なりけりと思はれるのであります。

あなたの花壇は奇麗ですか。
あなたの植木鉢には今どんな花が
咲いてゐますか。

神戸幼稚園の新しき試みの一端（一）

神戸幼稚園　志賀末

前號に掲げた樣なことを主眼として日々實行した方法を極めて具體的に而も有りの儘に記せば次の樣である。

一、時間割

各組共通時間割		説明
自午前八時至同九時二十分	掃除整頓	掃除は子供の來りたる時より始まる
自九時二十分至十時	會集（唱歌談話遊戯）	會集は郊外に行かざる子供のみ集る
自十時至十一時二十分	各組隨意	隨意時間に幼兒に自由に遊具を弄ぶを得
自十一時二十分至十一時四十分	整頓及晝食用意	整頓時間隨意に遊具を使用する時は殊に整頓の必要を感じて此時間を設く
晝食、	食後自由	
自午後一時十五分至同一時四十分	各組隨意	郊外には毎日三組づゝ交替にて行く
終十分間	整頓	雨天には別に雨天時間制を設く

自由遊具の準備

保姆より指定する遊びを少くしたる結果亂雜に流るゝ恐れがあります故に毎日貸與する遊具を毎朝取り掛へて置き子供に任意に使用させます毎日出す遊具は左の樣であります。

曜日 ＼ 組別	紅葉之組	菊之組	梅之組	櫻之組	桔梗之組	撫子之組
月	圖畫、積木、大工、綿、絲等	染色、石盤、紙、糊等大工	粘土紙、綿等製造用具	洗濯用具飯事用具積木	自然物、環、板等、飯事用具	染色、石盤自然物
火	製造用具、圖畫、石盤、飯事用具、自然物	積木縫取用具飯事用具	圖畫縫取自然物絲卷	圖畫、自然物、紙糊等	粘土、石盤、積木	洗濯用具、紙、鋏等
水	縫取、絲卷洗濯用具、紙ハサミ等	粘土、圖畫、自然物	染色、石盤、大工道具	飯事用具、大工縫取、積木	圖畫、絲卷、紙糊等お手玉	製造用具、積木、紙ハサミ等
木	粘土、大工、自然物縫取	洗濯用具、製造用具、紙、箸、輪其他	積木、縫取用、具、綿絲等	染色、綿、絲等、石盤、絲卷、連鎖	染色、石盤、縫取板積木	積木、圖畫、飯事用具
金	染色、石盤、飯事用具	豆圖畫、大工道具、縫取	豆、圖畫、連鎖	綿絲等製造用具、石盤	飯事用具、洗濯用具、綿、糸等	豆、粘土、絲卷
土	豆、箸、輪等	自然物、石盤	洗濯、綿絲、飯事用具	粘土、豆	豆、連鎖	大工、石盤

以上示した時間割は各組何れも共通なるものにして此の時間の配置法に依りて各組各々自由に我擔當する子供を尤も良しと考ふる方法にて保育するを以つて一々之れを列擧することは、出來ぬが今其の一例として私が日々實行せる弱の組の概況を左に記して御敎示を乞ふこと丶致します。

日々の行事（但し弱の組）

イ、約束

朝鐘が鳴つて集り挨拶を終れば今日一日皆さんとどうして遊びましやうといつて尋ねると幼兒は

「喧嘩をしない樣にして遊びます」

「人を泣かさぬ樣にして遊びます」

「元氣に運動します」

「お體をちやんとしてせなかをまげないで居ります」

「お連れの方に親切にして遊びます」、など各々感じたまゝを發表するので其の中の最も必要と思はれることを唯一つ丈其の日に守る樣に約すること。

ロ、會集前一齊に深呼吸をすること、(約三度乃至四度)

ハ、姿勢の矯正

ニ、個人運動

晝食後の自由に遊ぶ時を利用して必要に應じ一人〳〵に全身又は局部的の運動をなさせる。

身體に特別の疾病なく概して薄弱なる子供は一日の内必ず徒歩、走りごつこをなすこと。

此の試みの主なる要件は室外保育をなすことであるは前述の通りであるがその爲めの特別の設備はない。幸私共の方では庭園の三分の一が藤棚になつて居るので夏の炎天の日でも光線の直射を防ぎよく日光を調節するので、これを利用して居る。そこで子供達はお互に目的を達するまでの過程として色々の準備をする大。工遊びをするものは机を運び道具を持つて來て用意するものもあれば粘土の仕度をする者もある、かくて約十五分乃至二十分間は自から撰擇した遊にふける、終ればめい〳〵かたづけて次の遊びにうつる準備から後かたづけまでの間が丁度四十分乃至四十五分を要するのである凡ての作業の時に於て姿勢に最も注意を拂ふため幼兒自身もいたく意識して居る樣子が見受けらる。

郊外行き

これは一週に四回晴天には必ず實行すること。

この郊外ゆきは徒歩の練習をすることに依りて自から足の筋肉を强健にし身體の抵抗力を强めるため。

自然物に接せしめて浩然の氣分を味はせ且つ亦自然物に對する興味を起させるため。

時に採集などして非常によろこぶ。

始めの程はわづか三四丁の所に行く途中に於て

四五人は必ず疲勞して歩行を嫌ふ者があるけれども、半ケ月の後には悉く元氣に歩き、さすがに廣々とした場所で自由の行動を取ることを最大の樂しみとして自らお山行を要求する樣になつた。一ケ月の後には樹立の山の奥深く上りても尙少しも疲勞の樣子がない。(最も此の時季は最好季の折柄にもよる)

子供の中には習慣上餘り歩くことを好まぬ者あれどもそは度一度と興味を持たせて歩かせることにつとめた。尙今一つは身體の薄弱なるため嫌ふ子供もあれ共元氣づけることに依つて却つて反對の結果を見ることが出來た。

特殊的疾病の者に對する注意

之については專門的の知識を有せぬため自分の經驗に加ふるに推測的の極めて一般的の方法に過ぎぬ。

イ、腺病質の者

該病の擴延に從つて種々なる變症を發見するに至るも幸に擴延したるものなきためこれの一般療法をなさしむ。新鮮の空氣を呼吸させる。運動を充分にさす、出來る丈肉筋の發育に注意し、おにごつこ、輪まわし、フートボル羽根つきなどをすゝめてその何れかを一日の中に必ずさすこと、殊にこの體質の者は食物に注意せねばならぬ。つまり營養をよくせねばならぬこと。これは家庭に於て直接關係のあること故家庭と連絡をつけて時折注意する。

ロ、心臟病の者

これも極輕度のもの。

新鮮なる空氣を呼吸させて凡ての刺激を少なくする。

運動の過度にならぬ樣特に注意する。

朝登園した時に一寸脈搏を計る運動をなしたる後再び其手を握りて試みそれより次の運動を課す。

子供自身は餘程意識するまでに苦痛を覺へぬと

自ら注意することを知らぬゆゑこれ等の子供に對しては幼稚園と家庭と常に連絡をとり兩者の狀態をよく知りて十分の注意を拂ふ樣につとめる。運動はシーソー、マリ投げ、積木、其の他手の仕事。

神經過敏の者

刺激を少なくするため始めの程は成る丈け他の子供の群より離れ保姆自身友達となりて遊びつつ觀察する、小さい作業をさせぬ樣にして大きい材料を與へて餘り細微に神經を使はぬ樣注意する。

其の外

一般に皮膚纖弱にして發育惡しきものは朝登園した時保育室に於て乾燥摩擦をなす。

食物に嫌好甚だしきもの

これは家庭に於て家族の者も困る由を訴へられた、そこで小さい帳面をつくり○と口の印を記入しおかあさんか其の他の人々と同じものを食べた時は○の印、無理を云つた時は口の印と約束して毎日朝早く正直に食事の模樣を聞きとつてこの習慣を直すこと。

食物の好き嫌らひをするの者に二通りある。その一は野菜物をきらひ、魚肉、牛肉、玉子、かまぼことといつた樣なもの丶外は食せぬものと肉食物を嫌ひ野菜のみ要求するもの。これ等は體質にも依る處ありといへども多くは習慣と我儘の場合が多い故、混食の習慣をつける樣に注意した、斯樣にすること一ヶ月餘にして從前肉食のみして居てやせて居たに拘らず家庭と幼稚園で協力して注意した爲めか健康狀態がよくなりて來た。

尙此の外或る幼兒などは毎日蒼白な顏色をして毎日幼稚園に來ては「ねむい〳〵」といつて疲れた樣子をして居た子供も原因を調べて見ると活動寫眞や夜歩きの爲め睡眠時間は不足し不潔な空氣を呼吸することの多きことが分つた。これ等も家庭の

親達が正直に凡ての狀態を語りかつ又こちらの云ふことを眞面目に聞き入れてくれる結果今日にては顏色もよくなり元氣も出でゝよき健康狀態となつて居る。幼兒體育發達に關しては家庭と先生との間の連絡を密にして協力して注意して始めの效果のあることを深く感じた。

姿勢の惡しき者、卽ち後屈の者二十九人の中六人ありこの六人を一つにまとめ机を高くして歩行の時最も注意させて居た、現今では四人まで矯正された。次に幼兒に就いての凡ての事柄を極めて簡單に記入して心身の狀態併に嗜好を知る爲めに次の樣な形式に記載した。

大正七年度　神戸幼稚園幼兒個性調査　撫子之組（弱）　姓名　年　月　日生

調査事項	言語	數ノ名稱觀念	聲域、樂音模倣力	色彩ノ名稱及濃淡ノ辨別	赤	樺	黃	綠	青	紫	時色	桃色	茶色	淡綠	淡紫	鼠色	水色	ポンタ色	黑	白	備考
學始年	駄言語ル	3	1—5		○		○												○	○	脊柱後屈、脫腸
學末年																					

入園當時ノ狀態

月日	天候	氣分	健康	お辨當	動作	主なる具	撰擇玩具	備考
	雨	爽快ナラズ	異狀ヲ認メズ	少シのこした	少シク落付ク	大工道具		

備考								
身體ニ關スル件ハ別表ニ記載スレトモ殊ニ注意ヲ要スル點ヲ保姆注意ノ爲ニ記シ置ク								

右の如く一々記載して幼兒の個性を一層よく知り日常の模樣を知りて此處に注意すべき點を見出した、そは彼等の性向によりておのづからの現象とはいへども餘りに選擇する玩具が一つに偏すること。彼等の身體の狀態と精神狀態によりて動作及要求する物に著しき影響を與へること。

此の試みの結果として今日までに得た處の二三を擧げれば左の樣である。

一、顏色蒼白くして陰鬱であつた幼兒も血色はよく成り活動が機敏になる。

二、體重の著しき增如。

三、特殊的疾病の快方。

四、長幼相混ずるがゆゑに幼を勞はり長を慕ふ良習慣の養成が出來ぬ。

左に體重の發達を數量的に示し强の發達と比較して參考に資す。

體重發達比較數				
強ノ組	弱ノ組	強ノ組	弱ノ組	
男		女		
九月—十月	一一〇匁	九一	一〇七・九匁	一〇六・五
十月—十二月	一三五・〇匁	一一四・五匁	一八一・〇匁	一二四・八匁
十二月—一月	一一〇匁	九一	八三・六匁	一三四・六
備考	十一月ハ流行感冒ノ爲メ殆ンド全月休ニ付體重ヲ測ルヲ得ザリキ			

九月の始めに於て著しく標準より劣り且つ打ち見る處も弱々しく四月より九月に至る五ケ月間の發達の遲々たりし此の弱の子供が一見しては見判け難きまでの發達を遂げ（勿論男女各々一名は依然弱なり）たといふことは果して何處に起因するか分明ならねど要するに强の組と弱の組との方法に於て違ふのは平日强組が弱に比して室内の保育を約一時間多くすること、郊外行きの度數の一度少なきことであるこの二つに依りて果して發達の度に影響するものとせば今後の保育の上に一層考ふべき餘地がある。

然し斯る種々なる試みも其の目的の一部に叶ひたりといへどもそは保育の終極の目的に非らずして意味深き究極の目的に達せんとするの方法手段である私共は彼等に純にしてかつ亦尊い生命のあることを自覺して居る以上此の生命の向上發展の爲めに盡すべき使命を悟り自ら全力を傾注して此の目的を貫徹のために自ら人格の向上發展のために絶へず修養することを一時も念頭より離すことは出來ないことを痛切に感ずるのである。（終）

◎日本幼稚園協會總會

本會總會は來る五月開催、詳細は次號に發表の筈。

表情遊戯

土川五郎

○噴水

圓形を作り圓心に向く。

一お池の 兩手を腰（掌を後方に向け甲を腰につく）すると同時に左足一歩前に前下方を見る。

噴水 左足を引くと同時に前上方を見る。

おもしろい 拍手三回。

ひつきりなしに 兩手をつなぎ前進四歩。

水柱 手を離し兩手を前方より頭上に眞直にあぐ、引にて十分にあけ終りて下ろす。

シユウ 右足を一歩あとへすり足にてさがる。其時右手を體前右側下より左上へ目の高さまで、しなやかにあぐ（五指をまとめ上へ向け）直に右下にさげる。

シユウ 左にて同じ。

シユウ 右にて同じ。

シユウ 左にて同じ。

高く上つて 兩手を體前より高く上げつゝ兩側にまわして下ろす。

おもしろい 拍手二回宛にて下ろす。

二お池の 前に同じ。

噴水 前に同じ。

すゞしいな 兩手を體前肩部に交叉し頭を左右左に傾け眞直になす。

風に吹かれて 手を取りてすり足四回めにて

霧の雨 兩手を高くあげ直に下ろす。

サラ 右足をすりつゝ一歩あとへ、右手を開き指先そろへ左上より右下へ圓曲に（足と共に）下げ。

サラ 左にて。

サラ　右にて。

サラリ　左にて。

顏に當つて　頭を左に屈げ左手にて左頰を受け次に頭を右に屈げ右手にて右頰を受け。

スゞシイナ　兩手を腰に足蹈三回す。

○ブランコ

圓形をつくり圓心に向け二重圓にて向き合すもよし。

ブランコブランコ

兩手を水平に體前右方に出し掌を下にし指先を揃へ**ブランコ**にて右方よりやゝ下方を通じ左上方に柔らかに振り次の**ブランコ**にて之れを元の右上方にかへす、最後に兩肱を屈し兩手の掌を前に向け兩肩の所に持ち來たす（兩手を左右に振るとき右踵又は左踵をあげて調子をとる）。

コゲヨコケヨ　左足を一歩ふみ出すと同時に兩手を前方へ（やゝ下方を通り前上方へ）しなやかに出す、出し終りたるときは掌は前方に立つ。次の**コゲヨ**にて又下方を通り元の位置にかへる

數ヘテコゲヨ　前に同じ。

一つ二つ三つ四つ　兩手を體前にて指を一つづつ屈し。

十マデコイダラ　拍手四回。

カハリマセウ　手を一回打つと同時に各自一回轉ず二重列にて向き合ひたるときは兩手を取りて位置の轉換をなす。

四月の園藝

東京女子高師教授　有川ひさゑ

暑さも寒さも彼岸まで、此處まで漕ぎつけると人も、草も、蟲も、やつと呼吸がつけるやうになる。さうしてめい〳〵、忙しくなつて來る。三月末から今月にかけては、仕事が多い。

一、草花や蔬菜の種蒔き。
一、宿根草花の株分又植付。
　　前回に説明
一、ダリア・カンナ等夏咲球根草花の植付。

球根物は第一土地を充分に深く耕起する事が肝要である。此處に油粕・米糠等の原肥を入れよく混ぜ合せて、球の高さの二倍位、土のかかる深さに植える。

一、秋播いた草花例へば美人草・矢車菊・バンヂー等を苗場より夫れ夫れ花壇に植え出す。

花壇には兼ねて堆肥・落葉の類を敷き込んで置いて、此處に花の色どりや、草の高さ等を考へ意匠もあり、眺むるにも便利なやうに配置すべきである。

一、芝の植付。

芝生をつくるなり、花壇の縁に付けるなり何れにしても今月頃から梅雨までの間が、時節である。高麗芝がよいが、運賃こめて、十錢で買へる。矢張時節の間が、芝の價も安い二三倍には廣げられるから、二三坪の芝生になら一坪買へば澤山である。

土地を耕起して、地面を中高にするか、或は一方に傾斜するやうに均らして、配水の便を計り、此處に、短ざく形の芝片を、隙間を置いて併べるなり、或は二倍にでも、三倍にでも眞綿を引き伸すやうに廣げてもよい。次に芝の根がしつくり土に着くやうに、板でおさへて、上から土篩で、土を芝がかくれる位にふりかけ、當分は人のはいらぬやうに周りに繩張りでもして置く。

手入れとしては春秋二回位、刈込をしたり、肥料を施す位で、肥料は、硫酸アンモニアのやうな無臭の肥料を稀く溶して、むらなく一面にかけるとよい。他のものとちがひ、不潔の肥料では一寸困る。最も手の入ることは、芝の中に絶えず頭を出す雑草を抜くことである。併し二三年辛棒して除ると、其の方が勝つて、雑草のはびこる餘地がなくなる。ところがあべこべに、雑草の方が勢力を得かけたらとりかへしはつかぬ。

おてだまを遊ぶにも、角力をとるにも、恩物を併べるにも、お辨當をつかふにも、この天然の綠毛氈にまさつたよい場所が他にあらうか。それに周りに花壇でもあつて、小蝶のヒラ〳〵する頃などは一しほであらう。

芝を刈つたり、雑草をぬいたりの平常の手入れも、決しておつくうのことではない。

草をぬくには小さな竹箆を、芝を刈るには鋏を與へて、座つてなり、寢ころんでなり、思ひ思ひに、一寸でも、二寸でも、めいめいの手に世話をさせてゆくならば、これが、子供にとりて、たのしみの多い、ふさはしい仕事にも遊びにもなる。且つ自分が丹精したものと思へば、靴で踏みにじるとか、棒で堀りかへすとかのいたずらも、する者は見えぬであらう。

一、牡丹・芍藥・桔梗・ヲダマキ等宿根物の手入れ。

今月になるとずつと芽が伸びて來るから、株周りの土を軟くして、肥料を施し、更に株際に土をかけてやるもよい。花が咲く迄に二三回も同樣の注意をしたい。

又薔薇のやうに枝の伸びるものは、長すぎる枝を剪り透かせたり、育ちの弱い、見込みのない枝を間引いたり等の仕事も必要である。

一、害蟲驅除

草が軟い若芽を出しかけると、蟲は殼を破つて御馳走めがけてたかつて來る。殊に蚜蟲は新芽だの蕾だの、大事のところをえらんでつきたがる。しかも蕃殖が早くて、一日もうつかり出來ぬ。屑つた石鹼を三指で一つまみほどを湯呑五分位に溶かし、これに、のみとり粉を小匙一杯もいれて混ぜ、數時間置いてこれを筆にでもつけて洗ひとるとよい、蟲の死にがらも殘さぬやうに。

雜錄

○田中ふさ子女史の引退

三十五年の長き星霜を、幼兒教育の爲めに捧げられたる本會評議員芝麻布共立幼稚園長田中ふさ子女史は一昨年秋の頃より眼疾に罹られ、今回醫師の切なる勸告によつて愈々三月を以て引退せらるゝ事となつた。

同女史は明治十六年二月東京女子師範學校師範科を卒業せられ山形縣師範學校に赴任し、十八年十月同校を辭して直ちに共立幼稚園の保姆に聘せられた。これ實に女史が保育界に身を投ぜられた初めである。二十二年一月私立築地幼稚園長となり、同六月公立京橋區幼稚園長となり大に成績を揚げられた。廿三年三月其當時前記共立幼稚園の顧問、外山正一氏神田乃武氏の懇請もだし難く再び共立幼稚園に歸任して園長の職に就かれた、爾來今日に至る迄終始一貫幼兒教育の爲めに盡された。

抑〻女史が卒業せられたる時代は師範、女學校に赴

くを名譽とし之に向ふを以て無上の榮達と考へて居つた者が多かつた、女史は獨り衆と反し、ことに社會よりはあまり顧みられなかつた幼兒教育に專心身を委ねられた、この一事は明かに女史が幼兒教育に如何に趣味をもち如何に確信を持してこれに一身を捧げんとせられたる堅き決意と崇高なる至情の漲つて居られたかを察する事が出來る。

女史は一ケの園の教育に力を盡されたのみに止まらず、廿二年以來保姆養成の任に當られ、現に女史の薫陶を受けたものが今は全國各地にそれ〴〵教育の爲めに働きつゝあるもの中々多いとの事である。

かく自ら經營せられたる園の教育に力を致さるる外、保姆養成に或は日本幼稚園協會幹事として評議員として又東京市保育會評議員として盡されたる功績は幼兒教育史上沒すべからざる者である。

眞に女史は保育界の功勞者で又重鎭であつた、さればこそ帝國教育會は四十四年十二月女史に對し多年保育に從事し其功績顯著なりしの故を以て頌狀並に功牌を贈られ、東京市教育會又大正四年十二月表頌狀並に記念品を贈つて女史の功勞を表彰した。幼兒教育界今や益〻有爲の人を求むる事切なるの秋に當り、茲に女史の引退せられるゝは斯界にとつて大なる遺憾である、女史庶幾くは今後攝養宜しきを得て再び健康に復され斯界の爲め聲援せらるゝことを。

○全國教育雜誌記者大會の開催に就きて

都下教育雜誌記者大多數發起の下に、今春五月の候を期し、東京に於て「全國教育雜誌記者大會」を開催することゝなつたのは、發記者一同の歡喜措く能はざるところである。今左に、本會の趣意・規約を公開することによつて本會の意義を明にし、一は以て全國教育雜誌記者諸君の贊同を促し、一は以て全國教育者諸君の注意を喚起し、斯くして目的の貫徹をはかる一つのよすがにしようと思ふ。

一　本會の趣意

本會開催の趣意は、左に掲ぐる趣意書に明である。

全國教育雜誌記者大會趣意書

文明の大轉換期に際會して教育者の使命頓に重きを加へたると共に、我等教育雜誌記者の任務は特に大となれり。蓋し教育雜誌記者は、文明の原動力たる教育界の先驅者たり戰士たればなり。然るに、在來に於ける教育雜誌記者の間には、他の同僚と相提携して國家教育の進歩に貢獻せんとする途未だ開けず、隨つて其の勢力は極めて狹少なる範圍に止り內は教育界全體に對して權威者たるを得ざると共に、外は教育界以外の社會に對して教育界の代表者たり且教育者の擁護者たるを得ざる憾みなきにあらざりき。斯くして、教育雜誌記者は、其の他の操觚者に比し、其の數は必らずしも劣らざるに係はらず、常に操觚界言論界の一隅に屏息するの止むなきに至れり。こは教育雜誌記者自身のためには勿論、教育界のためにも將に國家のためにも、まことに痛歎すべきことに屬す。殊に今日の如く、教育雜誌記者の任務特に重大を加へたる時に於て、この憂ふべき狀態を目睹することは、自ら教育雜誌記者たる我等の到底忍び得る所に非らず、然り、我等は一日も速に斯る狀態を改善し以て我等の使命の貫徹に力めざるべからず。然らば、如何にすればこの目的を達するを得べきか教育雜誌記者各自實力の充實と人格の高上とをはかるべきは勿論なれども、當面の緊急事は、全國教育雜誌記者が一致團結して相互に砥礪すると共に、最高使命貫徹のために力闘することにより、內は教育界に對し、外は一般社會に對して、眞に權威ある一大勢力たらんことを努むるにありとす。これ、我等が今般斷然として全國教育雜誌記者大會の開催を企圖したる所以に外ならず。實に、本會開催の趣意は、全國教育雜誌記者が一致團結し教育上の輿論を喚起し、以て眞に全國教育者の好侶伴たり、眞に全國教育界の良戰士たることを期するにありとす、全國教育雜誌記者諸君、希くば我等が微衷を諒とし、斯道のため奮つてこの擧に參同せられんことを。

二　本會の規約

本會の規約は左の如くである。

全國教育雜誌記者大會規約

一、本會は全國教育雜誌記者互に氣脈を通じ、一致團結して有力なる教育上の輿論を喚起するを以て目的とす。

二、本會は全國教育雜誌記者大會と稱す。

三、本會の事務所を東京市神田區一橋通帝國教育會內に置く。

四、本會は東京市に於て開く。

五、本會の會期は五月上旬中の三日間とす。

六、本會は左の役員を置く。

會長　一名　副會長　一名

評議員　若干名　幹事　若干名

七、本會の經費は都下教育雜誌發行所の寄附金及び地方賛同者の醵金を以て之に充つ。

寄附金は拾圓以上とし地方賛同者の醵金は參圓とす。

附則

此の規則を實行する爲めに追て細則を定むるものとす、

三　本會の役員

會長　澤柳政太郎

副會長　湯本武比古

評議員（イロハ順）

「教育實驗界」稻毛詛風
「新體育」飯塚正一
「教育時論」原田實
「現代教育」西原和治
「國語教育」保科孝一
「理科教育」川本宇之介
「教育論叢」河野清丸
「農業教育」加治屋哲
「教材集錄」加藤知正
「技能教育」立川青兒
「日本の小學教師」多田房之輔
「家庭及學校」田制佐重
「教育界」曾根松太郎
「東京教育」成瀨鐵治
「小學研究」浦谷甫水
「都市教育」野本鐵治
「國民教育」大津復活
「內外教育評論」大島正德
「幼兒教育」倉橋惣三
「體育研究」熊谷圭膳
「女子教育研究」小林照朗
「教育學術界」尼子止
「教育新聞」佐藤正
「教育研究」佐々木吉三郎
「兒童研究」北澤種一
「小學校」岸田蒔夫
「帝國教育」藤原喜代藏
「新教育」三浦修吾
「學校衞生」本圖晴之助
「最新教育思潮集錄」本宮祐嶽
「教育と學用品」渡邊豐松
「教育と學用品」峰間信吉

幹事（イロハ順）

稻毛詛風　原田實　多田房之輔　曾根松太郎
尼子止　岸田蒔夫　峰間信吉　三浦藤作

幼稚園教育學講義

文學博士　谷本富述

第一章　幼稚園と兒童保護

世界の人は往々私を博識ぢや、物知りぢやと云つて居られるが、何程博識でも物知りでも私に小學校の兒童を敎へて見よ、又は中等學校生徒の體操を敎授して見よなどと申された日には、到底出來ないのである。殊に幼稚園の保育などと來たら、一時でさへも出來ないことを確信してゐる。其の私がかうして幼稚園の問題について諸君の前でお話を致すといふことは甚だ困難なことであり、且つ又不適當のことである。然し實際保育上の知識や經驗が無いからとても、これに關するお話が出來ないといふ規則もないから、私は又私の立場として此の問題を話して見たいと思ふ。卽ちそれは畢竟時勢の進歩と共に幼稚園の改良に關すること、言葉を換へて云ふて見ると幼稚園の立場の新たな廣い見解についてお話を進めて見たいと思ふからである。

抑々幼稚園事業の大切なることは、今更云ふ迄もないことである。然るに西洋に於てさへも今尙その効用を認めぬ人達がある、況して我國にては必要を感じぬのみならず、寧ろ之を呪ふて居る樣な分子さへなきにしもあらずといふ狀態である。斯く云ふ私も實はつい近頃までその一人であつたが、然しそんな考は今日只今からでも改めてよいと思ふ。かつて京都市で京、阪、神三市聯合保育會の催された時は、私は世間一般の幼稚園といふものに對して寧ろ反對の感を持つて居たので色々お

話したことがあるが、その時から私は神戸幼稚園長望月女史と相識る樣になつたので、氏は私の反對說に對して色々話されたことがあるが、私は尙自分の考を捨てることは出來なかつたのである。

『婦人公論』の十一月號に藤本房次郎氏の書かれたものを見ると、幼稚園は人間の天然自然の發育にそむくといふことを言つて居る。其の理由は人間の發育は大きい筋肉の發展から始めべきである。卽ち走つたり木のぼり等をすることが肝要で疊紙や豆細工の樣なことは極めて小筋肉を使ふことゆゑ全く不自然であると言はれて居る。併し又同誌の十二月號に於ける佐々木吉三郎氏の批評に依ると、以下の樣なことがいはれてゐる。

一、幼稚園は人工的にして自然的でない　子供といふものは元來友達を欲すれど、この時代は小さき家庭が丁度當つて居るので、一足飛びに大きな仲間に入れるといふことは不自然である。

二、小學校に入學してからの成績を比較して見ると好いが　然しこれについては實驗の仕方がない。たゞ多年の經驗に依ると、幼稚園から來た子供は兎角學校を遊場の樣に考へて居る弊があるらしい。

以上二人の說はその云ふ處は違ふけれども、各々一致の點がある。それは從來の幼稚園は人工的である事であるから、今後はこれを自然的に改善せねばならぬと云ふことである。

尤も我が國の小學校及幼稚園の現狀を見るに必ずしも外國に劣つては居らず、むしろ一層發達して居るのであるが、從來內外共に陷れる弊は如何にも餘りに人工的なことであるのは爭はれない。蓋し其の理由は小學校は暫く別として、幼稚園について見ると、元來幼稚園には各々互に流儀のあるものであつて、その一は Kindergarten 流である、此の Kindergarten といふのは Froebel 氏の唱へた所である。Froebel は今から大體七八十年

前の人卽ち(A.D 1782—A.D 1852)の人である。彼はペスタロッチ氏の弟子であるが、學問がありて而も神信心なる理想的哲學者である。一千八百十六年に始めて學校を建てゝ生徒を養成せんとした、後瑞西に行つて一千八百三十四年にブルグドルの孤兒院長に成つた。一千八百二十六年に有名なる The Education of Man といふ本が出來たが、其の本の內には彼の哲學思想の全部が含まれて居る。彼は之を表はさんためにチュリンゲンのブランケンブルグの森の入口に小家を建てたが、それが卽ち Kindergarten 流の始である。

然し此の Kindergarten 流の起つたよりもつと以前に大英國の Scottland の中程より少しく北部に當つた處に New Lanark と云ふ處があつて、其處に Robert Owen といふ人が居て、其の人が旣に新しい流儀を以て幼兒を敎養せんとして居た。彼の生涯は(A.D 1771—1858)である。此の人の名は今日まで我が國の幼稚園仲間には餘り聞えて居ない樣であるが、此の度の戰爭後に於ては我國に於ても將又何れの國においても追々名聲の擧がるだらうと信じて居るのである。そは彼は大經濟學者であり、且つ社會主義者(社會改善者)であつたからで、彼は New Lanark に紡績會社を建てたが、その周圍の社會の改善の爲めにて其の職工を敎育すべく紡績會社の內に New Institution を建てた(A.D1815)。其の學舍は二階建であつた、階上は大人の敎育場所であり、階下は子供の敎育場である。而してその仕方は Kindergarten 式でなくて Infant School であつて、幼兒が步ける樣になつたら其處へ入れるのである。

其の敎育の目的は 一、母親の爲に脚手まとひを省くこと。二、惡い習慣より避けること。三、善良習慣をつくることでつまり其の內ですることは、健康で幸福で快活であり而して良習慣を持つた子供を育てゝやることである。從つて子供の知らんとすることは敎へてやり、こちらから幾ら

でもいつてやる樣にした。そして書物は後にして先づ實物に由つて敎へ尙ほ凡て音樂に結びつけたのである。故に子供にとりては眞に地上の天國であると謂はれた。つまり子供を敎育をする場所といふよりも、寧ろ子供を保護するといふことが主である。

以上二流の外に最近には又 Moutessori といふ人の Casa dei Bambini 卽ち Chiildren house 流がある。これは Kindergarten よりも、もつと知育を主として、知的敎育の方法を色々巧に考へて居る。併し此の流は其の儘では幼兒の敎育には不適當な點も無いとしない。

以上三つの流の中で自分の一番注意を望んで居るのは R. Owen の Infant School である。近頃ある佛敎の雜誌に、子供には訓練規律が必要であるのに、エレンケーやモンテッソリーの如き人が出て子供の自由を尊重するなどいふのは大に間違である弊害の樣であると云ふて居る人があつた。自分は斯る說の今日現代の敎育に携はつて居る人の口から出るのは眞になげかはしいことであると思つた。

自分は此の講演をするために幼稚園の實際生活を見んと欲し、一日神戸幼稚園を訪ねて、終日徐にその內部を觀察した。そして自分の見たままを失敬御免を願つて此處に云ふて見ると、矢張り

(イ)キンデルガルテン流の臭氣がある。(ロ)矢張人工的が多い。(ハ)自然界との接觸の缺乏であるとの非難は免れまいと見受けた。從つて私は今後の幼稚園には R. Owen の Infant School を加味するのみならず、根柢としてはルソーの『エミール』を据置きたいと考へた。

斯くて以上述べたことを換言して見ると、敎育といふものも亦畢竟兒童保護事業の一つであるといふことが出來るのである。而して自分はそれを主張したい。何故兒童保護といふことを此處で主張するかといふに、それは近世的社會傾向である、

であるから勿論兒童保護といふことは近頃のみに限らす、以前からも云はれて居たことながら、近世に於ける兒童保護と古代に於けるそれとは全然趣を異にして居ることを辨へねばならぬ。

昔スパルタが戰に敗けた時、敵國より人質を出せと云ふことがあつた。そして其の人質には八十人の子供をとのことであつた。處がそれに答へて云ふ、大將や中將ならば幾人でもあげるが、子供は一人もやることは出來ぬと云ふたさうである。それによりても兒童を尊重して居たことがよく判る。然し斯る事柄は近世的社會傾向である所の兒童保護とは全く違ふ。卽ち彼のスパルタのは國家本位にして子供は只その方便である。否近頃でも獨逸に於ては別して子供をよく敎育したけれ共、それも亦皇帝や皇室のためにしたのである。然るに近世的傾向は他の方便としての子供でなく、子供それ自身のためのみであるとする。昔に於ける一般子供が他日租稅を出してくれるとか兵役に服してくれる爲めとかに保護してやつたものであるから難有くない。

敎育大辭典としては最好いモンローのものの中に兒童について何んと云ふて居るかと見たらば子供は一國にとりて眞の資本なりとあつた、而して世の中に資本をかけて利益を得るとしたら、子供を敎養するより上に越すものはないといつて有る。然し自分は之れに對して矢張り子供を機械視して居ると考へざるを得ない。

處が近來は又子供は國家或は父母から敎育を受ける權利を有するものであると云ふことをしきりにいつて居る。我國では父兄は子弟を敎育する義務があると云つては居るが、西洋の今日の說とは餘程意味が違ふ。それと云ふのも今日では社會主義からして人生觀の根本の考が變つて來たのである。卽ち人々には生活權があるといふことを云ふと同時に、兒童には又敎育を受ける權利があると言ふ樣に成つたので、それと同時に父母はそれに

教育を施す義務があるとする。そこで子供に對する教育を施す見方に二つ有り。卽ち、一、兒童は教育を受ける權利有りとするは新說で、二、兒童は教育を受ける義務ありとするは古い。

此の兒童保護問題に關する恰好の參考書 Sigis Mound Engel の The Elements of Chila Protection などで、其の序文に十九世紀の後の半分は幸に兒童保護が認められる樣に成つた。從つて世間では十九世紀を兒童の世紀といつて居る。然し自分は今二つの名をつけることが出來る。卽ち一、社會主義の世紀、二、ダーヴィン世紀である。而してこれ等は要するに一理に歸するので、いづれも根本は兒童を本位にして之を保護せねばならぬといふことである。

かつてエレンケー女史は「二十世紀は兒童の世紀なり」と謂つたのと較べると一世紀程違つて居るが、十九世紀は十八世紀に比すれば兒童の世紀であるけれ共、二十世紀は一層兒童の世紀であらねばならぬ。戰爭の後は尙一層兒童の世紀にならう。斯くなると從つて今日の幼稚園といふものも亦自ら全然變つて來るに違いない。今日の幼稚園は學校の準備的の樣なものに事實に於て成つて居るのは惡い。兒童の權利を保護する爲と成つて欲しい。所謂兒童の權利といふのは次に擧げる樣なものである。

一、子供は良く生れる權利。
二、兩親の名前、扶助併に保護を受ける權利。
三、閑暇、遊戯、娛樂の權利。
四、教育を受ける權利
五、身體併に精神に於て適當の準備の出來るまでは勞働から免除される權利。
六、無慈悲の虐待から免除される權利。
七、健康併に道德の保護を受くる權利。
八、たとへ犯罪をなしても、再び身を立てらゝる樣正當穩當に身を處し得る境遇に置かれる權利。

以上の權利を兒童は當然持つべき筈である。そ

こでこの幼稚園について考へるに、そは子供に適當の閑暇、遊戯、娯樂及び適當の教育を與へること。即ち以上八ヶ條の中の第三、第四が幼稚園に適するのである。今後の幼稚園は此の四つの條件が必要であると考へる。

斯くて兒童保護の方法即ち兒童の權利を保護するといふ意味では左の精神が必要である。

一、兩親の結婚　小兒に良い遺傳を傳へるといふ意味に於て、其の兩親の結婚に對して國家が干渉すること。而してそはユーゼニックスの注意に基いだ干渉である。ユーゼニックスといふことはこれを邦語で譯せば善種學又は優生學といふことが最も當を得て居る。即ち身體及び精神に缺點あるものは結婚を禁止する。

二、姙娠中の保護　この意味は二三千年前より既に云はれて居り、殊に上流婦人の深い注意を拂つて居る胎教の意ではない。寧ろ今日に於ける一般乃至は下等社會の婦人の勞働を取締ることである。

三、分娩時期後の保護（國家は保護するの責任あり）

イ、助產婦に關する注意　即ち助產婦の教育を完全にし且つ津々浦々までこれを置くこと。

ロ、哺乳に對する注意　牛乳の鑑定並に牛乳の分配。

ハ、乳母の選擇　身體及精神の健全なるものにして傳染性疾病を有せざる者、且つその性格の善良なる者を選ぶこと。

四、保育所　我國に於ても既に各所に設けられて居る樣な貧民や勞働者の子供達を集めこれ等の者を教育的に養護してやる樣な設備の成る丈多くなること。

五、學校及補習教育　小學校丈の程度にては不足故、補習教育の必要がある、而して其れ等の教育は國家が負擔する義務がある。

六、病兒、低能兒の保護。

七、犯罪の保護　一度罪を犯したからといつて再び社會に立つことの出來ぬ樣なことをしない方法を採ること。

八、兒童の勞働に對する保護。

九、兒童虐待禁止　凡て此等の諸點で比較的に好く注意されて居るのは、匈牙利で、Engel 氏も亦同國の大學教授である、その書物の中には遂一その遣り方の原則方法が書いてあるから恰好の參考書と申したので、英譯本がある（文責在記者……神戸幼稚園　志賀末）（以下次號）

大人になつたなら
私が大人になつたなら
偉くならう、得意にならう、
其時こそ　私は云はう　友達に
私のおもちやを混ぜかへしては
いけない　と。

――スチブンソン――

日本幼稚園協會規則

第一條　本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條　會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條　會員ハ會費トシテ一ケ月金拾五錢ヲ醵出スヘシ。會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條　令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條　幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラルヽモノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條　本會ハ毎年四月總會ヲ開キ、二月、六月、十月ノ第二土曜日ニ例會ヲ開ク。但場合ニヨリ例會期日ヲ臨時變更シ又臨時休會スルコトヲ得

第八條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及講習會ノ開催

一、雜誌發行（毎月一回）

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

會長　一名　會務ヲ總理ス

主幹　一名　會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事　若干名　會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員　若干名　重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條　會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條　主幹、幹事、評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推擧スルモノトス

第十二條　本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ルヽコトアルヘシ

第十三條　此規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

加盟保育會

東京市保育會　京都保育會　大阪市保育會　神戸市保育會

靜岡縣保育會　名古屋保育會　香川縣保育會　福島縣保育會

吉備保育會

會長

湯原　元一

主幹

倉橋　惣三

幹事（イロハ順）

井村　くに　池田　トヨ　坂內　ミツ　和田　實　和田　くら

土川　五郎　小向　きみ　小高　つや　杉本　ふみ

評議員（イロハ順）

乙竹　岩造　吉田　熊次　田中　ふさ　野口　幽香　安井　哲

槇山　榮次　藤井　利譽　下田　次郎　日田　權一

地方委員（イロハ順）

折井彌留枝　大和田りよう　坪內　きく　宇式　かん　久住　モト

坂井　ふで　司馬　のぶ　望月　くに　膳　たけ

客員（イロハ順）

巖谷　秀雄　岩谷英太郎　波多野貞之助　細川潤次郎

戶野周次郎　大瀨甚太郎　奥好　義　尾田　信忠　本間　辰藏

大村　芳樹　嘉納治五郎　唐澤　光德　谷本　富　大久保介壽

棚橋源太郎　多田房之輔　田中　敬一　中島　力造　高島平三郎

野尻　精一　野上　俊夫　久留島武彥　松本亦太郎　中村　五六

富士川　游　福士末之助　小西　信八　小磯　吉人　松本孝次郎

雀部　顯宜　櫻井　光華　澤柳政太郎　岸邊　福雄　淺岡　一

篠田　利英　東　基吉　馬上孝太郎　森川　正雄　三島　通良

尺　秀三郎　菅原　敎造　瀨川　昌耆

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります

コドモ

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼年雜誌 良友

本誌はコドモの兄樣姉樣に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選ばるゝであらうか單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區林町五十七番地 コドモ社 電話小石川 一六二一 八九二

幼兒教育 第十九卷第四號 大正八年四月一日發行

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可（毎月二回一日發行）

大正八年三月廿八日納本

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場